

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 24 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10848

研究課題名（和文）精神疾患患者の家族へのエンパワメントと希望につながる支援の構築

研究課題名（英文）Development of support programs that lead to empowerment and hope for the families of psychiatric patients

研究代表者

田上 美千佳（Tanoue, Michika）

千葉大学・大学院看護学研究院・教授

研究者番号：70227247

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、精神疾患患者と家族の地域生活促進を図る上で、患者の家族に希望と豊かな生き方への視点をもたらす家族支援支援体制の構築に寄与し、家族への支援体制と支援の方策を提示することが目的である。

そこで、地域で精神疾患をもつ人の支援を行っている専門職者を対象に、地域での精神疾患をもつ人の家族への支援への志向、支援の実践頻度と重要度を測定するための30項目のweb調査を実施し、143人からの回答を得た。その結果、家族支援への興味・関心、家族への直接的な支援経験や研修の受講経験が家族支援の重要度の認識や支援の実施に影響していることが示唆された。地域での家族支援への認識を高める研修等の課題が明確になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本で精神疾患をもつ人の家族は、当事者の回復を願いながらも疾患のもつ困難さや精神疾患に対するスティグマの中で、介護の負担などの多くの苦しみを抱いている。

地域生活をしている精神疾患をもつ人の家族が看護職者を中心に関連する職種が連携しながら、外来および地域の場で役割と目的をもって家族への支援を実施していくことの意義は大きい。本研究の成果を精神疾患をもつ人とその家族への支援に活かすことにより、当事者の回復だけでなく、家族のリカバリーの促進につながり、家族がエンパワメントされ家族自身が豊かな人生を歩むための一助になると考える。

研究成果の概要（英文）：Families of mentally ill patients in Japan suffer much from prejudice against mental illness, including the burden of caregiving. It is necessary to improve support for patients with mental illness and their families in the community. The purpose of this study was to clarify the attitudes and perceptions of support professionals in the community toward family support in order to empower the families of mentally ill patients living in the community and to help the families recover. A web-based 30-item questionnaire survey measuring the frequency and importance of family care for mentally ill patients was administered to support professionals who provide support for mentally ill patients in the community. Simple tabulations of the questionnaire items were conducted. 143 people participated in this survey. The survey suggested that many family-oriented supports were being practiced, but that some items, while highly important, were not being implemented frequently enough.

研究分野：精神保健看護学

キーワード：精神疾患患者 精神疾患患者の家族 家族支援 地域生活 エンパワメント リカバリー

1. 研究開始当初の背景

厚生労働省社会保障審議会精神障害分科会は2002年12月に約7万2000人の精神科社会的入院患者を10年以内に社会復帰させるとし、精神保健医療領域では、現在、精神疾患患者の地域移行が図られている。同時に、精神医療改革として精神科の救急急性期治療の充実が図られ、精神疾患患者の短期入院化にも重点がおかれている。長期入院患者の退院後、あるいは短期入院による治療後に地域生活を再構築し継続するために、また、地域で精神疾患患者がよりよい生活を送るためには、患者支援のみならず家族の理解と協力を得る支援も必要である。しかし、従来から日本では精神疾患患者の家族が、スティグマの中で絶望感や喪失感を抱えながら行う介護の過度な負担が課題となっている。2013年に成立した精神保健福祉法改正において、保護者制度が廃止され、医療保護入院の保護者同意要件が削除されても家族等の同意要件は存続し、家族の負担は継続している。さらに、地域生活が促進されているにもかかわらず、精神疾患患者の私宅監置による死亡事件が2017年、2018年と発覚し、社会問題化された。早期退院による地域移行を図るのみでは、家族の負担は増強するばかりである。研究代表者らの調査では、介護する家族の困難が大きく、心身の健康状態が悪化し、「患者を殺して、家族が自殺を考える」という状況が生じていた(田上 2007)。また、精神科救急入院料病棟からの退院した精神疾患患者の相談相手の不在や僅少、あるいは母親のみを相談相手とする患者の居宅生活の状況が示された。さらに、外来受診に同伴する家族への支援はなされていないという外来ケアの実態が明らかになった(Tanoue 2017)。したがって、精神疾患患者の家族に過度な負担を生じる地域移行ではなく、家族を配慮した地域支援や施策が必要である。そのためには、これまでの患者の介護者としての家族のあり方ではなく、家族自身が絶望や喪失から回復し、家族自身の人生を取り戻しながら歩んでいくことをめざした支援にパラダイムシフトすることが、喫緊の課題である。この新たな支援は、これまで以上に家族が患者とともに地域社会で歩んでいくことにつながり、患者と家族のより豊かな地域生活が促進されていくと考える。

そこで、家族がエンパワメントされ家族が豊かな人生を歩むために、看護職者を中心に関連する職種が連携しながら、さらに外来および地域場で、役割と目的をもって支援を実施していくことの意義は大きい。これらのために、家族がエンパワメントされ家族の本来持っている力を生かせる支援を検討して、明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、地域生活を送る精神疾患患者の家族がエンパワメントされ、家族が回復しうる家族支援体制の構築に寄与し、支援の方法を提示することを最終目的として、以下の点を明らかにした。

精神疾患患者の家族に対して行われている、地域の精神保健福祉看護専門職の支援状況を明らかにする。さらに、家族がエンパワーされ、家族が自身の人生を肯定的に認識できるための支えとなりうる地域の精神保健福祉看護専門職の支援を明らかにする。

地域で生活する精神疾患患者の家族がエンパワメントされた支援 (good practice) から、家族のエンパワメントやリカバリーにつながる支援方法と支援内容を把握して、その特徴と家族支援のあり方を明らかにする。

の結果をふまえて、精神疾患患者の家族支援の強化と家族の特徴や地域支援に応じた、地域における家族への支援方法と支援のあり方を策定する。

3. 研究の方法

1) 研究対象者

精神疾患患者の地域支援に従事する精神医療保健看護福祉職専門職者（医師・看護師・保健師・精神保健福祉士/社会福祉士・作業療法士・理学療法士・公認心理師/臨床心理士・介護福祉士・ケアマネージャー・ピアサポーター等）

2) 調査方法

機縁法による無記名自記式 Web 調査を実施した。

3) 調査内容

(1) 対象者の背景情報

(2) 地域生活を送っている精神疾患をもつ患者のご家族への支援について在宅における看護実践自己評価尺度（三浦ら,2005）を改変した自記式 6 下位尺度 30 項目を用いた。各尺度項目について支援の実施頻度（以下、頻度）と家族のエンパワメントを促すための支援としての重要度（以下、重要度）について回答を依頼した。頻度はいつも行っている(4 点)～全く行っていない(1 点)、重要度は大変重要である(4 点)～全く重要ではない(1 点)の 4 段階評価とした。

(3) 家族状況の好転に寄与した支援に関する記述を依頼した。

(4) 患者の主診断は、国際疾病分類第 10 版(ICD10)の精神病病態水準(ICD10: F 20-29,F30-39)、神経性障害(F40-48)、パーソナリティ障害(F60-69)圏を含み、器質性疾患(F0)、精神遅滞(F7)を除くとした。

4) データ分析方法

対象者の背景情報の記述統計、質問項目の単純集計と背景情報と質問項目との相関の分析を行った。記述内容は、数量化した単純集計および質的分析とした。

5) 信頼性・妥当性の確保

分析の信頼性・妥当性確保のために、経験年数 10 年以上の精神医学保健福祉看護専門職者であり研究者である分担研究者との検討、および量的研究の専門家からの助言を受けた。

6) 研究における倫理的配慮

研究代表者所属機関倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:NR4-80)。

4. 研究成果

成果の一部である量的分析結果の概要と結論を記す。

1) 全体分析の結果：143 名からの回答を得た。対象者の背景を、表 1 に示す。

全体分析の 6 下位尺度において重要度の得点が高かった項目は「当事者・家族との関係性を維持し、発展させる行動」「知識・技術を提供し、多職種と協力して問題解決・回避をする行動」であり、得点が低かったのは、「家族構成員間の関係性を維持し、強化する行動」「家族の問題対処を捕捉し、強化する行動」であった(図 1)。さらに、30 質問項目において頻度の多い 5 項目は、2. 相手の立場に立って家族の話聞く、1. 家族の悩みや不安を受け止める、4. 家族の理解力や発達段階に応じた言葉やしぐさを選ぶ、29. 当事者から得た情報と家族から得た情報を照らし合わせる

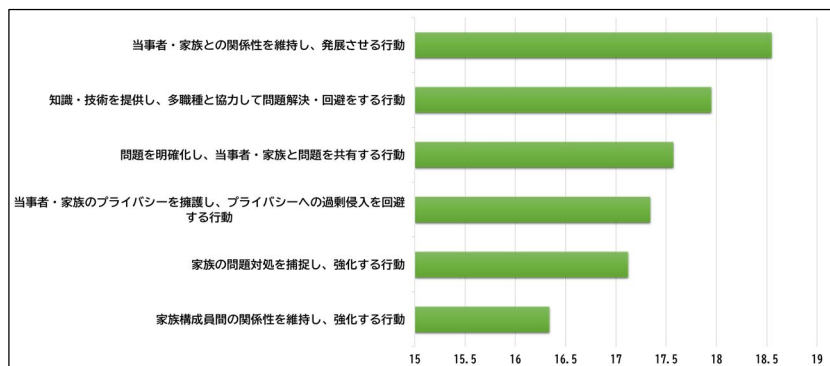
表 1 対象者の背景(N=143)

活用している資格	n	%	所属している機関(複数回答)	n	%
看護師	77	53.8	訪問看護	93	65
精神保健福祉士/社会福祉士	24	16.8	就労支援関係	35	24.5
作業療法士	11	7.7	外来/クリニック	25	17.5
精神科医	5	3.5	デイケア/ショートケア	22	15.4
サービス管理事業者	6	4.2	地域活動支援センター	16	11.2
保健師	6	4.2	グループホーム	17	11.9
臨床心理士/公認心理士	3	2.1	その他	27	18.9
その他	11	7.7			
				n	%
家族支援への興味・関心	n	%	家族相談会等の運営実施経験あり	76	53.1
大変興味がある	65	45.5	家族支援経験あり	110	76.9
興味がある	75	52.4	家族支援の研修経験あり	66	46.2

せる、24. 当事者・家族の

体面を傷つけないように訪問方法や服装などを工夫するの順であった。一方、頻度の低い3項目は、13. 必要に応じて患者から家族への感謝を表すことばを引き出す、12. お互いに協力し合え

図1 在宅における看護実践自己評価尺度重要度の下位尺度得点（高得点順）



るように患者の状況を一人一人に伝える、20. 家族が問題の解決方法を見出せるように助言するという家族成員間の関係性の維持・向上および、家族の問題対処の捕捉・強化に関する支援であった。家族支援の重要度の高い項目は、1. 家族の悩みや不安を受け止める、2. 相手の立場に立って家族の話聞く、4. 家族の理解力や発達段階に応じた言葉やしぐさを選ぶ、3. 非言語的コミュニケーションから当事者・家族の意思を理解する、6. 家族の問題の解決に向けて他職種と連携を図るの順であった。重要度の低い3項目は、12. お互いに協力し合えるように患者の状況を一人一人に伝える、13. 必要に応じて患者から家族への感謝を表すことばを引き出す、14. 必要に応じて家族間の雰囲気や和らげるような話題を提供するという家族構成員間の関係性を維持し強化する行動であった。なかでも、家族支援に関する30質問項目において家族支援への興味・関心のある人は興味・関心のない人に比べ、30質問項目中18項目において家族ケアの頻度が有意に高く、同様に重要度では11項目で高かった(p<0.05)。また、精神疾患を有する人の家族支援に関する研修等の受講経験の有無と30質問項目との関連では、経験のある人の頻度が18項目において高く、重要度は8項目で高かった(p<0.05 Mann-Whitney U test)。

2) 訪問看護師の結果

訪問看護師66名について分析を行った。その結果、特に、30質問項目において、精神疾患を有する人の家族支援に関する研修等の受講経験のある人の方がいない人に比べて、頻度は14項目で高いことが示された。また、精神疾患を有する人の家族への直接的な支援の経験のある人の方がいない人に比べて、頻度は8項目で有意に高く、重要度は6項目で高かった(p<0.05 Mann-Whitney U test)。

3) 結論

地域での精神疾患をもつ人の家族への支援において、家族の立場に立った支援が多く実践されていた。しかし、家族成員の力の向上や家族成員間の関係性への支援は十分とはいえない可能性があることがわかった。また、家族支援への興味・関心、家族への直接的な支援経験や研修の受講経験が家族支援の重要性の認識や実施に影響していることが明らかになった。さらに、他機関へ繋ぐ支援のように重要性は高いものの実施頻度の低い傾向にある支援項目も明確になった。

家族支援の充実に資するため、地域での家族支援への認識を高める研修等の必要性が高いという課題が示唆された。

文献

- ・ 田上美千佳, 新村順子(2007) 精神障害者の地域生活を促進する家族への援助に関する研究.平成 17 年度看護研究助成事業(木村看護教育振興財団).看護研究集録第 14 号:51-71.
- ・ Tanoue M, Niimura J, et.al(2017) Issues surrounding severe psychiatric post-patients ' community living in Japan How can we best prepare them? . 25th EUROPEAN CONGRESS OF PSYCHIATRY.
- ・ 三浦弘恵他(2005)在宅における看護実践自己評価尺度の開発 : 千葉看会誌 vol.11 No.1:31-37.2005 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田上美千佳, 塩飽仁編	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 児童思春期の精神疾患患者の理解とケア	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 2-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田上美千佳	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 児童思春期精神疾患・精神保健問題への理解と支援の必要性:心を育む支援のために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田上美千佳	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 精神疾患を持つ子どもの家族への支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 81-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Tanoue, M., Suzuki, M., Teraoka, S., Katayama, T., Ohukbo, S., Hirabayashi, M., Watanabe, A.
2. 発表標題 Care for Families with Psychiatric Patient in the Community in Japan
3. 学会等名 WCP2023 (23rd WPA World Congress of Psychiatry) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Suzuki, M., Tanoue, M., Teraoka, S., Katayama, T., Ohukbo, S., Hirabayashi, M., Watanabe, A
2. 発表標題 Family Support for Patients with Mental Illness Living in the Community in Japan
3. 学会等名 WCP2023 (23rd WPA World Congress of Psychiatry) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鈴木美央, 田上美千佳, 寺岡征太郎, 片山健浩, 大久保豪
2. 発表標題 地域で生活する精神疾患をもつ人の家族支援に対する医療従事者の認識.
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 美央 (Mio Suzuki) (30908801)	千葉大学・大学院看護学研究院・助教 (12501)	
研究分担者	寺岡 征太郎 (Teraoka Seitaro) (30626015)	帝京大学・医療技術学部・准教授 (32643)	
研究分担者	片山 健浩 (Katayama Takehiro) (90829946)	東京医療保健大学・看護学部・助教 (32809)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------